

ズベタイラギ *Atrina pectinata* (Linnaeus)

【選定理由】

2009年版愛知県レッドデータブックには、タイラギとして以下に記す2種を合わせて準絶滅危惧種として掲載されていた環境省第4次レッドリストでは、横川(1996)の研究結果に基づき、従来タイラギとされていた種には2種が含まれていることを採用し、ズベタイラギ *Atrina pectinata* (Linnaeus)、タイラギ(リシケタイラギ) *A. lischkeana* (Clessin) の2種として掲載された。本書でもこれに従い2種として扱う。個体群・個体数の減少、生息条件の悪化が選定理由としてあげられる。本県では、内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化している、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種は1960年代には三河湾奥部の渥美湾で海水浴客が誤って踏んで足をけがするほど多産した(愛知県科学教育センター, 1967)。しかし、近年三河湾奥部では死殻すら採集できない。三河湾湾口部、伊勢湾知多半島南部周辺では現在も漁業対象種となっているが、その量は年々減少している。将来的に絶滅危惧に移行する危険性がある種と評価された。

【形態】

殻長30cmを越える大型種。長い三角形の殻で、黒褐色。殻はやや厚いが脆い。殻は長い三角形で、多数の低い肋が走るが、リシケタイラギのような鱗片はなく、殻表は平滑。従来“タイラギの無鱗型”と呼ばれていた種。三河湾湾口部ではリシケタイラギより本種の方が大型になり、漁業対象として多く採集されている。貝殻中央部の貝柱は大きく美味で、高価に取り引きされる。



名古屋市名古屋港沖(コアサンプラー水深15m), 2009年5月30日, 木村昭一採集

【分布の概要】

【県内の分布】

三河湾湾口部、伊勢湾知多半島南部周辺では現在も漁業対象種として採取されている。2008、2009年のドレッジおよび潜水調査で名古屋港沖合の水深15mの泥底から生貝が1個体、死殻が少数ではあるが採集された(木村, 2010)。

【世界および国内の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸に分布する。国内では、本州から九州の内湾から湾口部にかけての低潮線から水深30mの砂泥底に分布する。瀬戸内海以西ではリシケタイラギより生息地が少ない傾向がある(山下・木村, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

内湾の干潟から潮下帯の砂泥底に、殻の後縁の部分を出した状態で大部分が埋もれて生息する。殻前部の足糸口からでる足糸を底質中の礫等に付着させ、かつ深く埋没しているため、掘り出すのは容易ではない。

【現在の生息状況／減少の要因】

現在の生息状況については、【選定理由】の項参照。上述したように県内の潮下帯は環境が悪化しているため、本種の生息場所、生息数とも減少している。

【保全上の留意点】

現在本種が生息確認される海域の環境を維持することが重要である。内湾から外洋域、干潟から潮下帯に連続する生息環境を保全する事が重要である。また本種は重要な食用種なので、漁獲圧による資源量の減少も無視できない。詳細な資源量の調査に基づく適正な漁獲と資源管理が不可欠である。

【特記事項】

レッドデータブックなごや2010(木村, 2010)では、本種と正しく同定された名古屋港沖産生貝標本が図示されていたが、レッドデータブックなごや2015(木村 加筆 川瀬, 2015)では長崎県産のタイラギ(リシケタイラギ)が図示されているので、ここに訂正する。現在まで名古屋港沖ではズベタイラギのみが確認されている。

【引用文献】

- 愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物, 222pp.
木村昭一, 2010. タイラギ, p. 213. in: レッドデータブックなごや2010(2004年版補遺), 316pp. 名古屋市環境局.
木村昭一 加筆 川瀬基弘, 2015. タイラギ, 455p. in: レッドデータブックなごや2015 動物編, 504pp. 名古屋市環境局.
山下博由・木村昭一, 2012. ズベタイラギ, p. 114. in: 日本ベントス学会(編), 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285 pp. 東海大学出版会, 秦野市.
横川浩治, 1996. タイラギ2型の遺伝的分化. *Venus*, 55: 25-39.

【関連文献】

- 木村昭一, 1995. 日間賀島南部海岸の潮間帯付近の軟体動物相. 研究彙報(第34報): 16-27. 全国高等学校水産教育研究会.
木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第35報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.
木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, (26): 18-20.
鈴木孝男・木村昭一・木村妙子・森 敬介・多留聖典, 2013. 干潟生物調査ガイドブック 全国版(南西諸島を除く), 269pp. 日本国際湿地保全連合, 東京.

(木村昭一)